

(様式1)

平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 073	提案機関名 横浜農業協同組合
要望問題名 ナス半身萎凋病抵抗性品種の育成	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ナスの栽培は防風や土壌水分の確保から、栽培ほ場が限定され、土壌病害である半身萎凋病の発生が問題となる。 このため栽培農家では、抵抗性台木に接木をしたり、ドロクロ等による土壌消毒を実施している。 しかし、接木は多労を要し、土壌消毒は公害や経済性の点からデメリットも大きく、また、近年は接木をしていても発生する事例が見られはじめています。 このためバイオテク技術を利用した、抵抗性品種の育種を望む。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	野菜作物研究部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 半身萎凋病については近縁種には抵抗性を有するものがありますが、栽培品種のなかで強度の抵抗性を示す育種素材はみつかっておりません。また近縁種における抵抗性の強さは不均一であることから複数の遺伝子が関与していると考えられています。このため抵抗性品種の育成はバイオテク技術を用いても困難な状況です。しかし野菜茶業研究所では台木用品種に近縁種などから半身萎凋病抵抗性の導入を試みているので、それらの情報を収集して参ります。 また接ぎ木株の発病については連作、深植え、土寄せ等の原因も考えられますので、普及をとおして適正な接ぎ木栽培について生産者に情報提供して参ります。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			